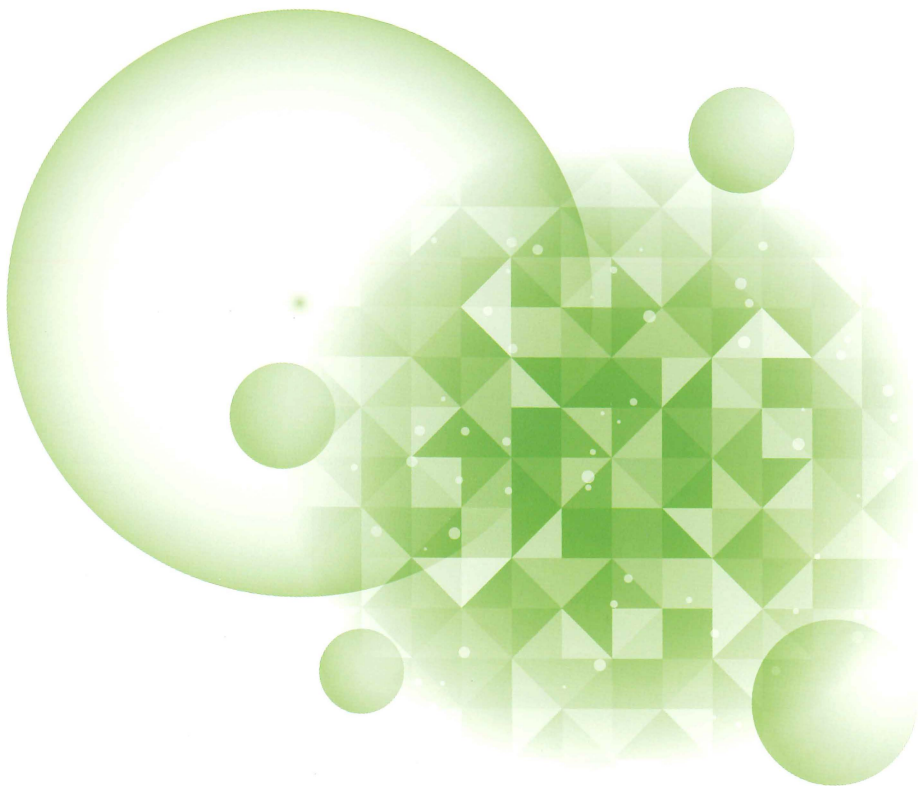


# 奈良県臨床細胞学会雑誌

The Journal of Nara Society of Clinical Cytology

第 22 号



奈良県臨床細胞学会

2022年3月発行

# 目次

## 総説論文

「子宮頸がん検診管理方式における米国、豪州、欧州と日本の現状」	豊田進司	1
---------------------------------	------	---

## 新任役員紹介

「理事就任のご挨拶」	松岡未奈巳	15
「理事就任のご挨拶」	辻野秀夫	15
「理事就任にあたって」	乾朝子	16

## 新入会員紹介

「奈良県臨床細胞学会入会のご挨拶」	西田真菜可	17
-------------------	-------	----

## 第35回奈良県臨床細胞学会学術集会

### 教育講演

「婦人科領域細胞診の有用性 ―実際の症例から―」	内山智子	18
--------------------------	------	----

### 特別講演

「子宮頸がん検診の世界の潮流 ～日本の現状との乖離～」	豊田進司	21
--------------------------------	------	----

## 第14回奈良県臨床細胞学会ワークショップ

「検鏡実習」	若狭朋子・浦雅彦	22
--------	----------	----

## 奈良県臨床細胞学会会則

## 奈良県臨床細胞学会雑誌投稿規定

## 編集後記

森田剛平	34
------	----

## 新任役員紹介

### 理事就任のご挨拶

奈良県立医科大学附属病院 病理診断学講座 松 岡 未奈巳

この度、奈良県臨床細胞学会理事に就任させていただき、関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。私は現在、奈良県立医科大学附属病院で勤務させていただいています。大学では多様な検体が提出されており、診断に苦慮しつつ周りの支えでなんとか業務をこなしています。2021年に細胞診専門医の免許を取得しましたが、まだまだ未熟であるため、上の先生方や細胞検査士の方々のご指導のもと、今後も精進していく所存です。奈良県臨床細胞学会の理事としても頑張りますので、ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

### 理事就任のご挨拶

奈良県総合医療センター臨床検査部 辻 野 秀 夫

このたび奈良県臨床細胞学会の理事に就任させていただき関係の皆様に深く感謝申し上げます。私は奈良県に入職後、数か所の施設に勤務し現在奈良県総合医療センター臨床検査部で病理・細胞診業務に携わっています。細胞検査の経験年数も長いのですが、勉強嫌いという私の性格もあり資格を取得したのは10年以上たってからでした。今になって若い時にもっと勉強しとけば良かったと後悔しています。LBC法の浸透や遺伝子検査の進歩等、細胞診検査も時代と共に進歩していくと思いますが、それについていけるよう努力していきます。奈良県臨床細胞学会の発展にも微力ですが協力させていただきたいと思います。ご指導よろしく願います。

## 新任役員紹介

### 理事就任にあたって

南奈良総合医療センター 臨床検査部 乾 朝子

この度、奈良県臨床細胞学会の理事に就任させていただきました、南奈良総合医療センターの乾朝子と申します。

南奈良総合医療センターが開院した2016年に細胞検査士としてスタートしてから早6年が経とうとしています。細胞診業務と毎日向き合う中で、諸先輩方から多くのご指導を頂き日々奮闘しております。

まだまだ知識不足ではありますが日々の研鑽を積み重ねる中で、地域貢献並びに奈良県臨床細胞学会の発展に努めていきたいと思っておりますので、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

## 新入会員紹介

### 奈良県臨床細胞学会入会のご挨拶

奈良県総合医療センター 西田 真菜可

この度、奈良県臨床細胞学会に入会させて頂きました奈良県総合医療センターの西田真菜可と申します。

私は学生の頃に人間の体から採取した細胞を観察することで病気の早期発見につながる検査があると知り、学びたいと感じ、大学4年生の時に大学で細胞検査士認定資格取得のために勉強をし、認定資格に合格することが出来ました。

今年の1月から病理部で勤めさせていただき、細胞検査士としてまだまだ知識、実力不足であると実感しております。日々勉強していきたいと思っておりますので、今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

# 奈良県臨床細胞学会会則

## (名称と事務局)

第1条 本会は、奈良県臨床細胞学会と称し、奈良県医師会に所属する。

第2条 本会の事務局は奈良県医師会館内に置く。

## (目的と事業)

第3条 本会は細胞診を中心に臨床細胞学の進歩向上および普及を図ることを目的とする。

第4条 本会はその目的達成のため学術集会をはじめ、その他必要な諸事業を行う。

## (会 員)

第5条 奈良県に在住または勤務先を有する日本臨床細胞学会会員であり、且つ奈良県医師会会員ならびに県医師会会員の管理する医療機関に勤務する医師および検査技師をもって本会の会員とする。但し、会長が認めたものはその限りではない。

第6条 会員は、理事会において定める会費を納入しなければならない。

第7条 会員以外で本会の主催する学術集会、その他の諸事業に出席する者を当日会員とすることがある。

## (会員の資格の喪失)

第8条 会員が次の各号の一つに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会届を提出したとき。
- (2) 本人が死亡、もしくは失踪宣告をうけたとき。
- (3) 継続して2年以上会費を滞納し催促に応じないとき。

## (役 員)

第9条 本会は下記の役員を置く。

会 長 1名

理 事 若干名

また、本会に顧問を置くことができる。

第10条 会長は会員の中から選出し、理事は会長より委嘱する。

役員任期は3年とし再任はさまたげない。

第11条 会長は随時理事会を招集し本会に関する重要事項を協議し実行する。

## (会議の開催)

第12条 本会は毎年1回の総会並びに学術集会を開催する。

## (会 計)

第13条 本会の経費は会費、寄付金をもって充当する。

第14条 会費の額および納入方法は理事会に諮って会長が定める。

第15条 本会の会計は理事の内1名が管理する。会計理事は会員に前年度の会計監査を受け、報告しなければならない。

第16条 本会の会計は毎年4月1日にはじまり毎年3月31日に終わる。

## (会則の変更)

第17条 本会の会則の変更は理事会の協議を経て総会において決定する。

## (附 則)

本会則は昭和60年1月26日から施行する。

平成9年10月25日 一部改正

平成23年10月13日 一部改正

平成27年12月5日 一部改正

令和3年7月5日 一部改正

## 奈良県臨床細胞学会雑誌投稿規定

- 1) 投稿者の資格：投稿者は、奈良県臨床細胞学会会員に限ります。ただし特別講演などや依頼原稿は別扱いとなります。
- 2) 掲載論文：本誌に掲載するものは、奈良県臨床細胞学会学術集会の一般演題や、特別講演、スライドカンファレンス、シンポジウム等の記録、一般の原著論文や症例報告、短報、総説、図説、解説等の臨床細胞学の進歩に寄与しうるもので、投稿に際しては1964年のヘルシンキ宣言（ヒトにおける生命医学(biomedical)研究に携わる医師のための勧告）を遵守して下さい。その他、各種集会の議事録、県内セミナーや勉強会の記録、検査室紹介などや連絡事項等の会員相互の協力や交流に役立つ記事も含まれます。
- 3) 提出方法：原稿は電子投稿での提出とします。Word（文書データ）、PowerPoint（写真、表など）、Excel（表データ）、JPEGを使用します。CD-R、USB、印刷物による投稿は別途、事務局にお問い合わせ下さい。
- 4) 論文の採否：提出された原著、症例報告、短報、総説等の論文は、査読を経た上、編集委員会で採否を決定します。
- 5) 校正：著者校正は、初校で行いますが、校正時の大幅な変更や加筆は避けてください。校正した原稿は指定期限内に返却して下さい。
- 6) 原稿の返却：採用された原稿一式は、雑誌印刷の完了後に返却します。
- 7) 掲載料：刷り上がり4頁までは無料とし、それ以上は著者の実費負担とします。ただし依頼原稿は例外とします。
- 8) 別刷料：本誌20部までを無料とし、特別に別冊を希望する場合は実費を請求します。
- 9) 原稿の送付先：奈良県臨床細胞学会事務局（橿原市内膳町5-5-8、奈良県医師会内、saibou@nara.med.or.jp）
- 10) 原稿作成の手引き
  - (1) 原稿の書式
    - a) 現代かなづかいの和文とし、ワープロでA4縦長の用紙に横書き1行40字程度、行間を1行として使用。
    - b) 度量衡単位はcm、mm、cm<sup>3</sup>、 $\mu$ 、ml、kg、mgなどCGS単位を用いて下さい。
    - c) 外国人名および適当な日本語のない疾患名、器具名、薬品名や術語などは原字をそのまま用い、タイプライター字を用いるか1マス2字ずつ活字体で記入して下さい。大文字で始めるものは、人名、固有名詞、Penicilinなどの商品名、ドイツ語名詞、文の最初にきた欧語に限って下さい。
    - d) 略語を用いる場合は、最初に完全な用語を記し、その後に（以下、○○）と略語を記入して下さい。
  - (2) 原稿の形式
    - a) 原稿の構成は1.内容抄録（500字以内）、Keywords 5語以内（原則として第1語は対象、第2語は方法、第3語以下は内容を暗示する単語とする）、2.本文（緒言、材料と方法、結果、考察）（症例報告の場合の本文は、緒言、症例、所見、考察とする）、3.謝辞、4.文献、5.図表の説明の順に記述して下さい。
    - b) 表紙には和文題名、著者名（漢字およびローマ字）（MD、CT、MTの別）、所属、郵送先住所、電話番号、e-mailアドレス、別刷り希望数を記入して下さい。表紙には頁数を入れなくて下さい。
    - c) 内容抄録は500字以内にまとめて、背景、症例、結論と小見出しを付けて下さい。小見出しは論文の内容に応じて適宜設定して下さい。
    - d) 原稿の枚数：1枚800字詰めとして、症例報告（一般講演・スライドカンファレンスを含む）は4枚程度（刷り上がり2～3頁）、一般原著、特別講演寄稿や総説は10枚程度（同5～6頁）、ワークショップ原稿は2枚程度（同2頁）、を目処として下

さい。

(3) 図・表

- a) 図・表はそれぞれ番号をつけ、簡単な和文または英文の説明を付記してまとめて添付して下さい。写真は図として下さい。また、本文中の挿入希望箇所を原稿の欄外に赤字で指定して下さい。
- b) 写真説明文には染色法と倍率を入れて下さい。電顕写真ではスケールを写真に入れるか写真説明文に倍率を記載して下さい。

(4) 文献

- a) 主要文献のみを挙げることにし原著、特集は20編以内、症例報告は10編以内として下さい。総説は編数の制限を定めません。
- b) 引用した順に番号をつけて列記し、その番号を本文中の該当箇所の右肩に（あるいは右側に括弧で）記入して下さい。
- c) 文献表記はバンクーバー・スタイルに、誌名略記は日本医学図書館協会編：日本医学雑誌略名表およびIndex medicusに準じます。
- d) (雑誌の場合) 著者名（和文はフルネームで、欧文名は姓のみをフルスペル、その他はイニシャルのみで3名まで表記し、3名をこえる場合はその後を“.他”, “et al.”と略記する）。表題（フルタイトルを記載）。雑誌名発行年（西暦）；巻：頁～頁。  
(例) 近藤裕美子、高野将人、森田剛平、他  
肉腫様肝内胆管癌と肉腫様肝細胞癌の2例。  
奈良医学雑誌。2008; 59: 175-181。  
(例) Toyoda S, Ohbayashi C, Okada H, et al. Cervical adenocarcinoma with stromal micropapillary pattern. Diagn Cytopathol. 2016; 44: 133-6.
- e) (単行本の場合) 著者名 標題 発行所；発行年。なお、引用が単行本の一部である場合は発行年の次に：頁～頁。を記載する。  
(例) Kurman R, Carcangiu M, Herrington C, et al. WHO Classification of Tumors of Female Reproductive Organs IARC. Lyon;

2014.

- 11) 投稿の締め切り：毎年、3月末日を投稿の締め切りとします。
- 12) 本誌の発行：原則当雑誌の発行を毎年、12月とします。
- 13) 著作権について：提出後の論文の著作権は本学会に帰属し、著者は電子媒体による公開を承諾するものとする。
- 14) 規定の改正：本規定は編集委員会の議を経て改正することがある。

(附 則)

平成22年10月21日  
平成27年6月25日一部改正  
平成29年10月19日一部改正  
平成30年10月2日一部改正  
令和元年6月4日一部改正  
令和元年10月30日一部改正



## 編 集 後 記

奈良県臨床細胞学会雑誌第22号発行に際し、ご協力いただきました関係者各位に厚く御礼申し上げます。発刊が遅れてしまったことをお詫びいたします。

本年も、昨年引き続き新型コロナウイルスの対処に奔走した1年でした。そのような中、昨秋におきましては、大林会長の指揮と会員各位の協力のもと、近畿連合会が無事に開催されました。近畿連合初のオンライン複合型の開催であり、不備もあったものの盛況のもと終会となりました。ご協力ありがとうございました。

本会も含め、近年は学会・学習会もオンラインでの開催が多くなっています。移動時間が無いことや、会場の広さに起因する物理的な入場者数制限などがなく参加が容易となったという意見も聞かれる一方、オンラインでは十分な討議ができないとの意見も聞かれます。

次学術集会においては一般演題の再開も視野に入れつつ、顔を合わせた活発な討議、それを踏まえた論文作成・投稿をいただければ幸いです。

令和4年3月吉日

編集委員 森田剛平

---

### 奈良県臨床細胞学会

第 22 号

発 行 令和4年3月

編集委員 豊田 進司

森田 剛平

浦 雅彦

発行人 大林 千穂

発行所 奈良県臨床細胞学会  
(奈良県医師会館内)

印刷所 株式会社 春日

---